新修

類語用例辞典

第二版

◉監修——吉田精一——文学博士

◉編——薬師寺章明——日本大学教授

長尾勇——日本大学教授

SHUEISHA

新修

類語用例辞典

第二版

◉監修
吉田精一
文学博士

◉編
薬師寺章明
日本大学教授
長尾勇
日本大学教授

集英社

吉田精一（よしだ・せいいち）
明治41年東京生まれ。東京大学国文学科卒。東京教育大学教授、東京大学教授、埼玉大学教授を経て、現在、大妻女子大学教授。文学博士。「現代文学論大系」（昭和30年度芸術選奨）。「自然主義の研究」（昭和33年度日本芸術院賞）。「明治大正文学史」「日本近代詩鑑賞」「芥川龍之介」「現代文学と古典」「古典文学入門」「近代文学評論史（明治編・大正編）」等。

薬師寺章明（やくしじ・のりあき）
大正14年下関生まれ。日本大学国文科卒。現在、日本大学教授。文学博士。「評説牧野信一」「野間宏研究」「現代文学の諸相」「評説武田麟太郎」等。

長尾　勇（ながお・いさむ）
昭和元年東京生まれ。日本大学国文科卒。現在、日本大学教授。「国語概説」等。

松本鶴雄（まつもと・つるお）
昭和7年埼玉生まれ。早稲田大学独文科卒。現在、群馬県立女子大学教授。「丹羽文雄の世界」等。

原条あき子（はらじょう・あきこ）
大正13年神戸生まれ。日本女子大学英文科卒。

新修　類語用例辞典　第2版

昭和四八年一二月二八日第一版第一刷発行
昭和五八年七月一〇日第二版第一刷発行
昭和五八年八月三〇日第二版第二刷発行

監修　吉田精一
編者　薬師寺章明
　　長尾勇
発行者　堀内末男
印刷所　共同印刷株式会社
発行所　株式会社　集英社
東京都千代田区一ツ橋二―五―十
電話　販売部〇三(二三〇)六一七一
出版部〇三(二三八)二八三一

©1973　落丁・乱丁の際はお取り替えいたします

ISBN4-08-400222-4-C0581

まえがき

先輩であり、友人でもあった故東京大学名誉教授時枝誠記博士は、いわゆる時枝文法の創始者として有名であるが、国語辞書の作り方についても独特の意見をもち、それが語義解釈の面にとどまらず、表現の面にも重点を置くべきだと主張された。

西洋の言語学がはいってくる前の日本の国語学は、古典の解釈と歌文の制作とによって育って来た。それは読む体験と、表現する体験とを合わせて学習するということに外ならない。この伝統を現代に生かすべきであるというのが、時枝博士の辞書論の根拠である。

しかし実際には、国語辞書といえば語義の辞典であり、表現について配慮したものは極めて少ない。我々の編纂したこの「新修類語用例辞典」は、それに対して語義を従とし、一つの語を中心にして、類語、類句を集め、それに用例を示すことを主とした、表現中心の辞典である。

日常生活で手紙を書いたり、簡単な報告をものするような場合に、この種の類語辞典を座右に置くことは、非常に便利である。このことは、私自身が論文を草する場合などに、常に体験していることである。

在来、この種のものがないではなかったが、この「新修類語用例辞典」は、これまで出ているものの中で、もっとも大規模で、体裁もはるかに整っている。

執筆・編集には、薬師寺章明、長尾勇の両氏があたり、松本鶴雄、原条あき子両氏の協力を得た。ここにそのことを記して感謝の意を表する。

国語表現力の衰退が問題になっている昨今、この辞書によって表現力を豊かにし、現代国語の充実を期し得れば、編者の望外の喜びである。

昭和四十八年九月

吉田精一

第二版に際して

初版の刊行以来すでに十年になるが、昭和五十六年十月の内閣告示により「常用漢字表」が実施されたので、これを機に、内容の一部を改めて第二版とした。なお、付録として「基本反対語」を入れ、さらに表現力を広げる配慮をした。

一層の御愛用を切望したい。

昭和五十八年六月

吉田精一

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

この辞典の特色と使い方

一、編集方針

(1) 手紙・論文・レポート・商用文を書く時に、ボキャブラリーの不足に悩むことがままある。この辞典はそのような時すぐ役立つように、文章表現をより豊かにするための類語・言いかえ語をできる限り多く集めて用例を示した。

(2) 最近の文章表現上の傾向として、外来語を使ってスマートさを狙ったり、また、逆に漢文調を使って計算された新鮮さを出す等多くの工夫が見られる。そこで、この辞典では、実生活に必要と思われる古語や外来語もページの許す限り収録するように努めた。

(3) 従来のこの種の辞典は「類語辞典」「反対語辞典」等のように、一つの目的だけを狙って編集されたため実用性の面でいささか配慮に欠けるところがあった。この辞典では、読者の文章表現上の便宜を考えて、それぞれの類語にできるだけ用例を収録すると同時に、文章表現上の注意点等も示して、実用的な辞典としての特色を出すよう細心の注意を払った。

(4) なお、用例は、慣用的な用例を中心とし、同時に、成語、成句等も含めるとともに使用上間違いやすいと思われる語については、前後に、名詞、形容詞、副詞、動詞などを付して、具体的に、正しい用法を示した。

(5) 収録した語は、文章表現上よく使われる言葉で、しかも類語のあるものを約八〇〇〇語収めた。

(6) 類語は原則として意味の近いものから、類語群ごとに▩印を入れて配列し、それぞれの類語群に共通する用例を付した。

二、表記・配列・記号

(1) 見出し語は、原則として、平仮名により、外来語は、片仮名で表記した。

(2) 見出し語の配列は、五十音順とし、同音の場合は、最初の見出し漢字の画数順とした。外来語の長音(ー)は、その発音がア列のものはア、イ列のものはイ、ウ列のものはウ、エ列のものはエ、オ列のものはオとみなして配列した。

(例)

えむ【笑む】
えもの【得物】
えもの【獲物】
エラー〔error〕
えらい【偉い】

(3) 【 】でくくったものは昭和二十一年内閣告示「現代かなづかい」、昭和五十六年内閣告示「常用漢字表」、昭和四十八年内閣告示「送り仮名の付け方」等、現行の国語表記の基準に基づいた表記であることを示す。

(4) 〈 〉でくくったものは「常用漢字表」にない字・音訓、あるいは、ない字・音訓を含む語であることを示す。

(例)

つむじまがり【つむじ曲がり】〈施毛曲り〉

(5) 外来語の表記は昭和二十九年国語審議会報告「外来語の表記」によった。綴りは〔 〕でくくって示した。なお、英語及び米語については特に国名を記さなかったが、それ以外の国の言葉は次の略号を用いて示した。

(イ) イタリア語
(オ) オランダ語
(ギ) ギリシア語
(ス) スペイン語
(ソ) ロシア語
(中) 中国語
(ド) ドイツ語

（フ）　フランス語
（ポ）　ポルトガル語
（梵）　梵語（サンスクリット語）
（ラ）　ラテン語
（和）　和製語

(6)　注意は、文章表現上、必要と思われる事項に関して、見出し語、類語について、それぞれこの記号を用いて示した。

（例）
あつい【熱い】……注意「暑い」は別字。一般に「熱い」は火、体温、心理的なものなどの熱度の高さ、「暑い」は気温の高さに用いる。

(7)　誤字は、文章表現上、特に間違いやすいものについて示したものであり、この記号によって示したものは誤りではなく、このような誤記・誤字を犯すことのないように注意を喚起したものである。

（例）
おしはかる【推し量る・推し測る】……誤字「推し計る」

(8)　▒印は、先に述べたように類語群を示し、原則として同じ意味の類語、または、同じ用例の類語群を示している。なお、用例は「　」内に示し、用例中の――は、見出し語、あるいは類語が挿入されることを示している。

（例）
うなる〈唸る〉　「風が――」▒うめく、苦しむ。「痛さに――」▒呻吟(しんぎん)する。「病床で――」……

右の用例中「風が――」の――には『唸る』が入り、「痛さに――」の――には『うめく』『苦しむ』が、「病床で――」の――には『呻吟(しんぎん)する』が入る。
また、意味、説明等が特に必要と思われる用例については、その用例に続けて（　）でくくっ

てそれを示した。

（例）

ふうりゅう【風流】……▨数寄（すき）。「――を凝らす」（すべてに風流な趣向をとりいれる）

(9) ⇩は参照すべき見出し語を示した。なお、参照すべき見出し語が二つ以上ある場合、それらの配列は五十音順とした。

（例）

パーティー〔party〕⇩あつまり（集まり）、えんかい（宴会）、かい（会）

三、付録について

(1) 文章表現を豊富にするためには、文章そのものの構造や語についての基礎的な知識が必要とされる。これらの知識を分かりやすく、しかも短時間に身につけることができるように、**文章の書き方**（基礎編――『文章を書くための基礎知識』『文章を書くための技法』）を設けた。

(2) なお、実際に、論文・レポート・手紙文等を作成する場合に、直接役立つように、**文章の書き方**（実践編――『文章を書きあげるまで』『実用文の書き方』）を設けて、文章表現の必要に迫られた場合の座右の参考書としてすぐ役立つように配慮した。

(3) 巻末に、「**基本反対語一覧**」を収録した。

あ

あい【愛】愛情、慈愛、慈しみ。「母の――」 ■恋。「――が実る」 ■恋愛。「熱烈な――」 ■かわいがる。「子供を――」 ■ラブ、アムール。

あいか【哀歌】「人生の――」 ■挽歌(かばん)。「――を唱和する」 ■哀傷歌、悲歌、鎮魂歌、エレジー。

あいがん【哀願】「助勢を――する」 ■嘆願。「助命を――する」 ■哀訴。「窮状を――する」 ■泣きつく、泣きを入れる。「先輩に――」 ■拝み倒す。「借金取りを――」 ■愁訴。注意「拝み倒す」は謝罪などの気持ちを含んだ特殊な場合に用いることが多い。

あいきょう〈愛敬・愛嬌〉かわいげ、色気。「――がある」 ■愛想。「――がいい」 ■愛くるしさ。■お世辞。「――を振りまく」 ■道化(どう)。「――てみせる」 ■ふざける、おどける。

あいこ【愛顧】「日ごろの――に応(たこ)える」 ■引き立て。「――をうける」 ■贔屓(ひいき)、後援、肩入れ。「――する」 ■恩顧。

あいご【愛護】⇩ほご（保護）

あいさつ〈挨拶〉会釈、おじぎ、答礼、返答。注意「拶挨」と逆に書きやすい。見当違いの「返答」に対しては「とんだ御――」などとも言う。

あいじゃく【愛着】⇩あいちゃく（愛着）

あいしゅう【愛執】⇩しゅうちゃく（執着）

あいしゅう【哀愁】「――を帯びる」 ■哀れ、さびしさ、悲哀、悲しみ、哀傷(あいしょう)、哀切、ペーソス。

あいしゅか【愛酒家】⇩のみすけ（飲み助）

あいしょう【愛唱】〈愛誦〉「――歌集」 ■愛吟(あいぎん)、愛歌。

あいしょう【愛称】渾名(あだな)、しこな、ニックネーム。「――で呼ぶ」 ■異名(いみょう)。「――をとる」 ■異称。

あいじょう【愛情】愛。「深い――」 ■情愛。「――に溺(おぼ)れる」 ■慈愛。「――にあふれる」情け、慈(いつく)しみ。「――をかける」 ■慕情。「――に浸(ひた)る」 ■恋慕。

あいじん【愛人】恋人、いい人、情夫、情婦、ラバー、リーベ。「――に会う」

あいず【合図・相図】目配(めば)せ。「――をおくる」 ■知らせ、報(らし)せ。「――を受ける」 ■信号、手振り、身振り、サイン。

あいせき【愛惜】「――の情」 ■惜しむ、いとおしむ。「行く春を――」 ■残念がる、惜念。注意「哀惜」（悲しみおしむこと）は別字。

あいせつ【哀切】哀愁。「――の情」 ■哀傷。「――歌」 ■哀れ。「――をもよおす」 ■悲しみ。「――の極(わき)み」 ■断腸「――の思い」

あいそ【哀訴】「窮状を――する」 ■

哀願。「助勢を——する」 ▒嘆願。「上司に——する」 ▒愁訴。「——する」 ▒泣きつく、泣きを入れる。「先輩に——」 ▒拝み倒す。「友人を——」 注意 一般に「拝み倒す」は懇望陳謝などの気持ちを含んだ特殊な場合に用いることが多い。

あいそう【愛想】愛敬(あいきょう)。「——がいい」 ▒もてなし。「——のいい人」 ▒親しみ、好意。「——を持つ」 ▒あいそ。「——が尽きる」 ▒勘定。「——を払う」 ▒おあいそ。(料理屋などで勘定を払うこと)

あいぞう【愛憎】「——は紙一重」 ▒愛と憎しみ、好ききらい、好悪(こう)。

あいだ【間】距離、関係、間(ま)、隔たり、すき間。「——がある」 ▒合間。

あいちゃく【愛着】執着。「——心」 ▒愛執。「——の情」 ▒愛惜、偏愛。「——する」 注意 慣用的に「あいちゃく」と読まれているが、正しくは「あいじゃく」と読む。

あいちょう【哀調】「——を帯びる」 ▒悲調。

あいて【相手】〈対手〉仲間。「遊び——」 ▒連れ合い、相棒、同士、パートナー。「——を選ぶ」 ▒敵、競争者、ライバル。「手ごわい——」 ▒敵対者。

アイディア〔idea〕(着想、考え、案、思いつき)「——マン」「広告の——」

あいとう【哀悼】「——の言葉」 ▒哀惜。「——の念」 ▒哀痛。「——の情」 ▒哀傷。「——歌」 ▒悔やみ。「——を述べる」 ▒いたむ、弔(とむら)う。「友の死を——」 ▒哀別。 ▒愁傷(しょう)、哀感(かん)。

あいとうか【哀悼歌】⇨ばんか(挽歌)

アイドル〔idol〕(偶像、理想像)「チームの——」

あいにく〈生憎〉折悪(おり)しく。「——留守です」 ▒具合悪く、都合悪く。

あいびき〈逢引・媾曳〉デート、密会、ランデブー、忍び会い。「——の楽しさ」 ▒出会い。

あいぶする〈愛撫する〉「ペットを——」 ▒かわいがる、愛する、いたわる。 注意 「愛撫」は愛情を動作に表した場合に使う。「心を愛撫する」とは言わない。

あいべつ【愛別】離苦、惜別、泣き別れ。 注意 一般に「愛別離苦」と続けて言うことが多い。

あいぼ【愛慕】恋慕。「——の情をよせる」 ▒慕情。「——を誘う」 ▒恋心。「——をいだく」 ▒恋い慕う、偲ぶ。「母の面影を——」

あいぼう【相棒】⇨あいて(相手)、いちみ(一味)、なかま(仲間)

あいまい〈曖昧〉不明確、不明瞭、不確か、あやふや、いい加減。「——な態度」 ▒模糊(こ)、ぼんやり。「——とした様子」 注意 「曖昧模糊」と続けて言うこともある。

あいみたがい【相身互い】相身互い身。「武士は——」 ▒お互い様。「迷惑は——」 ▒仲間同士。「——で励

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

まし合う」■同類。「――項」■助け合う、力を貸し合う。

あいろ〈隘路〉「人生の――」■難関。「――を突破する」■障害。「――を除く」■ネック。「――を押さえる」■小道、狭い道。

アイロニー〔irony〕(反語、風刺、皮肉、あてこすり)「――がきく」

あう【合う】一致する、ひとつになる。「呼吸が――」■集合する。「仲間が――」■合同する、合併する。「企業が――」■投合する。「意気――」

あう【会う・遭う】〈逢う・遇う〉■対面する、面会する、会見する。「訪問客と――」■直面する。「危機に――」■遭遇する。「事件に――」■遇会(ぐうかい)する、逢遇(ほうぐう)する、出会う、出くわす。「友と――」注意 一般に、人にあう場合は「会う・遇う・逢う」を用い、事件、災難などの場合は「遭う」を用いる。

アウトサイダー〔outsider〕(部外者、局外者、すね者、アウトロー)「社会の――」

アウトライン〔outline〕⇨こうがい(梗概)、りんかく(輪郭)

アウトロー〔outlaw〕⇨いほう(違法)

あえぐ〈喘ぐ〉苦しむ、悩む。「赤字に――」■息切れ、動悸(どう)。「――がする」■せき込む。

あおぐ【仰ぐ】「師と――」■敬う、尊敬する。「師を――」■崇拝する、畏敬する。「偉人を――」■見上げる。仰望(ぎょう)する、仰(あお)むく。

あおぞら【青空】〈蒼空・碧空〉青天、晴天、蒼天(そう)、青天井(あおてん)、日本晴れ。注意「蒼空」「碧空」の漢字を用いた場合は、ふつう、特に空の澄みきった青い状態を強調する場合が多い。

あおば【青葉】新緑、緑葉、若葉、翠葉(すい)、新葉(しん)。「――の季節」

あおもの【青物】⇨やさい(野菜)

あおる〈煽る〉「騒ぎを――」■扇動する、けしかける、挑発する。「群衆を――」■教唆(きょ)する。「犯罪を――」■おだてる。「子供を――」

あがく〈足掻く〉⇨もがく(踠く)

あかご【赤子】乳児、乳(ち)のみ児、新生児、赤児(せき)、嬰児(えい)、みどり児、赤ちゃん、赤ん坊、ベビー。注意 赤子「せきし」と読むと一般には君主に対して臣民を意味する場合が多い。

あかし〈証〉「――を立てる」■証明。「――する」■証拠、しるし、徴証、根拠。「――を示す」

あかじ【赤字】欠損。「――を出す」■損失。「――を補う」■マイナス。「――を埋め合わす」注意「黒字」に対して用いる場合が多い。

あかす【明かす】⇨うちあける(打ち明ける)、こくはく(告白)

あかつき【暁】黎明(れい)、早朝、払暁(ふつぎょう)、有り明け、曙(あけぼの)、東雲(しのめ)、未明、朝明け、夜明け、薄

明、明け方。▩時、時期。「——を待つ」▩場合。

アカデミック〔academic〕(学究的、官学的、官僚的、伝統的、形式的)「——な考え」

あがなう〈購う〉買う、購入する。「大金で——」注意「贖う」は別字。

あがなう〈贖う〉「罪を——」▩償う、弁償する、賠償する。「損害を——」▩罪滅ぼし。「——に財産を寄付する」▩贖罪(しょく)。「——儀式」注意「購う」は別字。

あかぬけた【あか抜けた】〈垢抜けた〉粋(い)な、伊達(だて)な、いなせな、スマートな。「——着こなし」

あがめる〈崇める〉敬う、崇敬する、尊ぶ、崇拝する。「偉人を——」▩奉(たてまつ)る。▩尊敬する。「先輩を——」

あからさま⇩たんてき(端的)、ろこつ(露骨)、むきだし(剝き出し)

あかんぼう【赤ん坊】赤子(あか)、赤ちゃん、みどり児、乳児、乳(ち)のみ児、新生児、嬰児(えい)、赤児(せき)、ベビー。

あきしょう【飽き性】⇩うわき(浮気)

あきたりない【飽き足りない】物足りない、食い足りない、不満足。「この教科書では——」▩不十分。注意「あきたらない」とも言う。

あきない【商い】取引、商売、商業。▩売上高。「——が減る」▩売買。

あきらめる〈諦める〉断念する、思いとどまる。「勝負を——」▩諦観(てい)する。「人生を——」▩見切りをつける。「商売に——」▩観念する。「死を——」

あきれかえる〈呆れ返る〉⇩ぼうぜん(茫然・呆然)

あきれる〈呆れる〉呆然とする、唖然(あぜん)とする、驚く。「あまりの事に——」

あくい【悪意】邪心、邪念、奸心(かん)。「——をいだく」▩他意。「彼の言葉には——が無い」

あくぎゃく【悪逆】⇩ごくあく(極悪)

あくぎょう【悪行】⇩あくじ(悪事)

あくじ【悪事】▩悪行、不義。「——を働く」▩非行。「——をする」▩悪巧み。「——少年」

あくしつ【悪質】性悪(わる)、たち悪。「——ないたずら」▩悪性(あく)。「——な流感」

アクシデント〔accident〕(突発事故、不祥事、事件、出来事)「思いがけない——」

あくしゅう【悪習】悪弊、悪風。「——に染まる」▩弊習、俗弊、陋習(ろう)。

あくじょ【悪女】⇩どくふ(毒婦)

アクション〔action〕(演技、所作、動作、身振り)「——をつける」

あくしん【悪心】悪意、悪念、邪心。「——をいだく」▩奸心、奸計、悪気(わる)。

あくせい【悪政】暴政。「——に苦しむ」▩失政。「——を招く」

あくせく〈齷齪〉⇩えいえい(営営)

あくたい【悪態】⇩あくば(悪罵)、わ

るくち（悪口）
あくたろう【悪太郎】⇩わんぱく（腕白）
あくとう【悪党】⇩あっかん（悪漢）、くせもの（曲者）
あくどう【悪童】⇩わんぱく（腕白）
あくにん【悪人】⇩あっかん（悪漢）、くせもの（曲者）
あくば〈悪罵〉雑言、悪口雑言。■悪口。「――を言う」■悪態。「――をつく」■痛罵（つう）。「――を浴びせる」■ののしる。
あくひょう【悪評】⇩あくめい（悪名）、おめい（汚名）、かげぐち（陰口）、しゅうぶん（醜聞）
あくふう【悪風】⇩へいしゅう（弊習）、あくしゅう（悪習）、ろうしゅう（陋習）
あくへい【悪弊】⇩あくしゅう（悪習）、へいしゅう（弊習）
あくま【悪魔】魔物、悪霊、魔女、サタン、デーモン。
あくめい【悪名】「――をとどろかす」■汚名。「――をそそぐ」■醜名。「――をはせる」■悪評。「――がたつ」■醜聞、スキャンダル。「――が広まる」■不評判。注意「あくみょう」とも読む。
あくらつ〈悪辣〉悪質。「――な手段」■あくどい、悪がしこい。「やり方が――」■奸知（かん）、悪知恵。「――にたける」■性悪（しょう）。「――な人」
あくりょう【悪霊】⇩あくま（悪魔）
アグリーメント〔agreement〕⇩けいやく（契約）、しんにん（信任）
あけがた【明け方】暁、早朝、夜明け、未明、曙（あけぼの）、払暁、有り明け、東雲（しのめ）、黎明（れいめい）。
あげくのはて【揚げ句の果て・挙げ句の果て】⇩けっきょく（結局）
あけくれ【明け暮れ】⇩にちや（日夜）
あげしお【上げ潮】「――に乗る」■好調、順調。「経過は――」■幸運。「――をつかむ」■満潮。「――の時刻」■順風。「――満帆（まん）」
あけすけ【明け透け】⇩ざっくばらん、きたんない（忌憚ない）、ぶしつけ（不躾）
あけぼの〈曙〉明け方、払暁（ぎょう）、朝明け、夜明け、黎明（れいめい）、東雲（しのめ）、朝ぼらけ。
あげる【上げる】⇩あたえる（与える）、おくる（贈る）、くれる（呉れる）、ささげる（捧げる）
あこがれる〈憧れる・憬れる〉■思慕。「――を抱く」■憧憬（どう）。「――の眼差し」■慕う。「母を――」■思い焦がれる。
あさあけ【朝明け】夜明け、明け方、薄明、黎明（れいめい）、暁、朝、朝（あし）、朝ぼらけ、曙（あけぼの）、東雲（しのめ）。
あざける〈嘲る〉嘲笑する、冷笑する、せせら笑う、あざ笑う、鼻であしらう、さげすむ、侮る。「他人を――」
あさぢえ【浅知恵】〈浅智慧〉「女の――」■短慮、浅薄、浅はか。「――な人」
あさで【浅手】軽傷、擦過傷、かすり傷、すり傷。

あさはか【浅はか】⇩あさぢえ（浅知恵）、あさましい（浅ましい）、けいはく、（軽薄）せんぱく（浅薄）、せんりょ（浅慮）

あさましい【浅ましい】いやしい、情けない、汚らしい、さもしい、卑劣な、浅薄な、軽薄な、浅慮な、浅はかな。「――行為」

あざむく【欺く】⇩いつわり（偽り）、かたすかし（肩透かし）、かたる（騙る）、ごまかす、さぎ（詐欺）

あざやか【鮮やか】鮮明、見事。「――な色彩」■はっきり。「映像が――と出る」

あざわらう【あざ笑う】〈嘲笑う〉⇩あざける（嘲る）、せせらわらう（せせら笑う）、れいしょう（冷笑）

あじ【味】うまみ、妙味、面白み、趣。「――のある言葉」■風味。「――がよい」■味覚。「すぐれた――の持ち主」

あじかげん【味加減】⇩あんばい（塩梅）

アシスタント［assistant］（助手、補助役）「――ディレクター」

アシスト［assist］⇩しえん（支援）

アジテーション［agitation］⇩せんどう（扇動）

アジト（秘密拠点、扇動本部、地下本部）「ゲリラの――」注意［agitating point］を略したもの。

あしどめ【足止め】⇩きんそく（禁足）

あしなみ【足並み】「――をそろえる」■歩調。「――をとる」■足取り、ペース。「――を乱す」

アジる⇩せんどう（扇動）

あじわい【味わい】⇩おもむき（趣）、ふうち（風致）

あずかる【預かる】保管する、受託（じゅたく）する。「品物を――」■引き受ける。「子供を――」注意「与る」は別字。

あずかる〈与る〉「相談に――」■ありつく。「ごちそうに――」■与（くみ）する。「敵に――」■関係する、関連する、係わる。「事件に――」■参与する。「計画に――」注意「預かる」は別字。

あせる【焦る】気をもむ、いら立つ。「時間が無いので――」■はやる。「心が――」■焦燥、焦心、焦慮。「――にかられる」

あせる〈褪せる〉⇩さめる（褪める）

あぜんとする〈唖然とする〉⇩あきれる（呆れる）

あそび【遊び】遊戯、プレー、ゲーム。「――を楽しむ」■遊蕩。「――にふける」

あだ〈仇〉⇩てき（敵）

あたい【価】⇩かかく（価格）

あだうち【あだ討ち】〈仇討ち〉敵討（かたき）ち、意趣晴らし、意趣返し、復讐、仕返し。

あたえる【与える】あてがう、上げる、くれてやる。「食べ物を――」■授ける。「賞状を――」■贈与する、進呈する。「金品を――」■ギブ。

あたかも〈恰も〉⇩さながら（宛ら）、まさに（方に）

あ

あだごころ〈徒心・他心〉⇩うわき(浮気)

あたたかい【暖かい・温かい】■温暖な、温和な、ぬくい、ぽかぽかする。■情け深い、慈愛深い。

あだっぽい〈婀娜っぽい〉色っぽい、つやっぽい、なまめかしい。「——ポーズ」■グラマー。注意 男性にはあまり用いない。誤字「阿駄っぽい」

あだな〈渾名・綽名・諢名〉■愛称、しこ名、あざな、ニックネーム。「——を付ける」■異称。「——で呼ぶ」■異名(いみょう)。「——をとる」

あだな〈徒名・仇名〉浮き名。「——を流す」■艶聞(えんぶん)。「——が絶えない」■熱いうわさ。■ロマンス。「ラブ——」

あたまうち【頭打ち】行き止まり。「——になる」■極限。「——状況」■ストップ。

あたらしい【新しい】新鮮な、斬新(ざんしん)な、新規な、目新しい、現代的、フレッシュ、ニュー、ヌーボー。

あたり【辺り】⇩しゅうい(周囲)、ほうめん(方面)

あたりまえ【当たり前】順当、至当、当然、もっとも、自然。「——である」■普通、一般。「——の生活」■普遍的、妥当な。「——法則」■大衆的。「——な店」

あたる【当たる】衝突する、ぶつかる。「車に——」■触れる。■命中する。「弾丸が——」■的中する。「占いが——」

あちこち〈彼方此方〉⇩ずいしょ(随所)、ほうぼう(方方)

あつい【厚い】「——壁」■部厚い。厚ぼったい。「——書物」■どっしりした、重厚な。「——態度」■手厚い。ねんごろな。「——心遣い」■温厚な、篤実な。「——な性質」

あつい【暑い】「——季節」■炎熱、炎天。■高温。「——多湿」■暑熱、ホット。注意「熱い」は別字。一般に、「暑い」は気温の高さ、「熱い」は火、体温、心理的なものなどの熱度の高さに用いる。

あつい【熱い】「——飲み物」■高温。「——と低温」■灼熱(しゃくねつ)。「——の太陽」■ホット。「——ミルク」■激しい、熱烈な、熱狂的な。「——ファン」■夢中。「——になる」注意「暑い」は別字。一般に「熱い」は火、体温、心理的なものなどの熱度の高さ、「暑い」は気温の高さに用いる。

あつかい【扱い】⇩しうち(仕打ち)、しょり(処理)

あつかいにくい【扱いにくい】⇩にがて(苦手)

あつかう【扱う】■操縦する、操る、動かす。「機械を——」■処理する。「問題を——」■もてなす、あしらう。「客を大切に——」■さばく。「難問を上手に——」■接する。「大勢の人と——」

あつかましい【厚かましい】ずうずうしい、厚顔な、鉄面皮(てつめんぴ)な、厚顔

無恥な。「――申し出」▒強心臓、面(ら)の皮が厚い、恥知らず。

あっかん【悪漢】悪人、悪党、悪者、ごろつき、アウトロー。

あっき【悪鬼】⇩おんりょう（怨霊）

あっけない〈呆気ない〉「――幕切れ」▒物足りない。「内容が――」▒張合いの無い、つまらない、単純な。「――人」

あっけにとられる〈呆気にとられる〉⇩ぼうぜん（茫然・呆然）

あっこう【悪口】⇩あくば（悪罵）、わるくち（悪口）、ひぼう（誹謗）

あっこうぞうごん【悪口雑言】⇩あくば（悪罵）、つうば（痛罵）、わるくち（悪口）

あっさく【圧搾】⇩あっしゅく（圧縮）

あっさつ【圧殺】⇩ころす（殺す）

あっさり⇩さっぱり

あっしゅく【圧縮】圧搾(さく)。「空気を――する」▒短縮。「時間を――する」▒縮小。「規模を――する」

あっせん〈斡旋〉周旋、仲介、世話。「家を――する」▒取り持ち。「恋の――をする」▒媒介。「ハエが伝染病を――する」▒口きき。

あっとうする【圧倒する】圧迫する、しのぐ。「相手を――」▒勝(さ)る。「――とも劣らない」

あっとうてき【圧倒的】「――勝利」▒大差。「敵に――をつける」▒段違いな、けた違いな。「――実力」

アットホーム〔at home〕（家庭的、くつろぎ）。「――な感じの部屋」

あっぱく【圧迫】「相手を――する」▒威圧、高圧。「――的な態度」▒抑圧、弾圧、圧力、圧制、抑制。

あつぼったい【厚ぼったい】⇩あつい（厚い）

あつまり【集まり】会、会合、集会、集(つど)い、寄り合い、パーティー。▒集合。

あつまる【集まる】群れる、集(つど)う、集合する。「同じ場所に――」

あつめる【集める】⇩きゅうごう（糾合）

あつらえる〈誂える〉注文する、依頼する、たのむ、オーダーする。

あつらえむき〈誂向〉希望通り、好都合、注文通り、ぴったり。「――の趣向」注意一般に「おあつらえむき」などと「お」をつけて使用する場合が多い。

あつりょく【圧力】⇩おさえる（抑える）

あつれき〈軋轢〉不和、摩擦、紛争、いざこざ、仲違(なかたが)い、角突き合い。「労使間の――」

あて【当て】⇩みこみ（見込み）

あてこすり【当てこすり】皮肉、あてつけ、いやみ、いやがらせ。「――を言う」▒風刺。「――する」▒アイロニー。

あてずっぽう【当てずっぽう】⇩おくそく（憶測）

あてつけ【当て付け】⇩あてこすり（当てこすり）

あてはずれ【当てはずれ】期待はずれ、予想はずれ、思いのほか、見当違い。「――の結末」

あでやかな〈艶やかな〉濃艶(えん)な、

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com